

# 清水こういちろうの イエローカード!



これは京都伏見みすみ病院グループ理事長・清水鴻一郎が、医療・介護・福祉の現場はもちろん、現在の日本が抱えている様々な事柄へするどく斬りこみ、問題提起するコラムです。



## 第三回テーマ

### 「冷たい高齢者医療制度にイエローカード!」

2000年4月、日本は新たな高齢者医療制度の導入を検討していた。70歳から74歳の高齢者を前期高齢者、75歳以上の高齢者を後期高齢者と線引きするこの医療制度では悪化する国家財政を口実に、前期高齢者の自己負担を1割から2割に、また、これまで扶養家族として保険料支払いの義務がなかった後期高齢者にも、新たな保険料の支払いを強いるという苛酷なものであった。

考えてもみてほしい。自己負担が1割から2割に増加するということは、支払い額に置き換えれば、前期高齢者の負担額は2倍に増えることとなる。例えば1万円の医療費であれば、保険者が9000円、高齢者が1000円それぞれ支払うこととなるが、新しい高齢者医療制度のもとでは保険者が8000円、高齢者が2000円支払うことになる。そして、後期高齢者から新たに徴収される保険料は当初4000円程度といわれていたが、実際には8000円程度かかることがわかった。これが現在、既に徴収されている介護保険料全国平均約4000円に上乗せされ、毎月、年金から天引きされる仕組みとなっていた。これは真に医療が求められる高齢者にとって厳しすぎる話だし、医療・介護に携わる病院グループの理事長としても見過ごせない。

そこで、福田康夫総理に直接お会いする機会があったので、高齢者医療制度の再検討を提言した。現在、私が会長を務める自由民主党の社会保障制度研究会では、65歳以上の高齢者を10年単位のライフサイクルで捉え、高齢者に対して切り捨てとならない、ゆるやかで段階的な負担増を提案している。昨年末、福田総理は急遽高齢者医療制度の導入凍結を決定した。年を取れば切り捨てられる日本ではいけない。高齢者の医療制度を再度検討するためにもよい決断だったと思う。

